|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 令和4年度 第1回浜田市保健医療福祉協議会  地域福祉専門部会 |
| 開催日時 | 令和4年11月14日（月）14：00～16：40 |
| 開催場所 | 浜田市役所4階　講堂Ａ |
| 会議の担当 | 健康福祉部　地域福祉課 |
| 議　題 | 地域福祉計画の改定について |
| 公開・非公開 | 非公開 |

【出席者】

|  |  |
| --- | --- |
| 委　員  (10名) | 金本委員、白川委員、桟敷委員、後藤委員、西川委員、德田委員、  三浦委員、布施委員、津野委員、田邨委員 |
| 事務局  (3名) | 藤井地域福祉課長、小驛地域福祉係長、木屋主任主事 |

１　会議成立報告

　　　12名中10名の出席により、委員の半数を満たす。

２　地域福祉課長挨拶

３　会長及び副会長の選出

　　　委員の互選により、德田委員が会長に、後藤委員が副会長にそれぞれ選出

された。

４　【報告事項】地域福祉計画に関するアンケート調査結果報告書

　　　報告資料No.1について、調査の概要を説明。

|  |  |
| --- | --- |
| 委　員 | 災害時には自身の防災行動計画「マイタイムライン」が非常に重要となってきており、地域福祉計画の中で考えていく必要がある。今回の調査で「避難行動」に関する設問があれば良かった。 |
| 事務局 | 「地域福祉計画」と同時に策定を進めている「障がい者計画」で避難行動に関する設問を設け実態を把握するよう努めている。 |
| 委　員 | 避難所が開設されても物理的な距離があるので避難する住民が少なくなるという課題がある。 |
| 事務局 | 市では避難行動要支援者名簿の作成を進めており、今後活用していきたい。 |
| 委　員 | 要支援者名簿を使い避難所へ連れて行こうとしても、だれが、何を、どのようにするか詳細は決まっていない。 |
| 事務局 | 防災先進都市では、要支援者名簿を活用した訓練を実施しているところもあり、市として指針を示す必要があると考えている。 |

５　【議題事項1】

（1）地域福祉計画の策定について

（協議資料No.1～No3：計画の位置づけ・期間、概要、策定スケジュール）

|  |  |
| --- | --- |
| 委　員 | 基本理念「市民を主役に　互いを認め合い　支え合うまち」は、浜田市が進める協働のまちづくり推進条例の中で重要な考えとなっており、アンケート調査結果などからも、自助、共助、互助、公助の重要性が伝わってくる。ゆる参加型の取組のように、押しつけではなく住民主体の考えで地域福祉計画を進めていく必要があるのではないか。 |
| 委　員 | 各地域でも人との関わり方が変わってきており、ボランティアのイメージも人により様々で差異がある。子世代も親世代から地域活動に係わる仕掛けを、地域側も意識していくことが大事で、そうすることで、親子で地域行事に参加し、楽しみ、体験し、次世代の地域づくりにつながっていくと思う。 |
| 事務局 | 住民主体の計画となるよう、委員の意見を参考にしたい。 |
| 委　員 | コロナ禍で園行事も難しくなり、地域の人々とのつながる機会が減っているが、園児と散歩時に、地域の高齢者などを見守る活動をしていきたい。ただ、いつも見かける高齢者がいなくなると心配になるが、どこにつなげばいいのかわからない。 |
| 事務局 | その場合、市の保健師や社協の相談センターなどに情報提供いただければ訪問等行うので、一報いただきたい。 |
| 委　員 | 自分の住む地域の一番の課題は移動手段だと考えている。自分の地域では知り合いに声を掛け乗り合いで買い物に行くが、通院など交通弱者のニーズに対応しきれないため、地域でまとまって乗り合い手段がとれないか協議をしている。 |
| 委　員 | 超高齢者ばかりでは外出できないので、リーダーシップのとれる地域活動の担い手づくりが重要で、そのあたりを検討する必要がある。これもボランティアと位置づけられると思うが、そういう人材を養成していきたい。 |
| 委　員 | 若い人からも公共交通移動手段がなく、活動範囲が制限されるという声もあがっている。年齢問わず、移動手段がないことに苦しんでいる人がいる実情を行政や市議会に認識してもらいたい。  乗り合いタクシー等もあるが、自治会輸送など、自分たちが主役になって取り組めることもあり、自分たちが主役になることにより、今より良くなることは可能。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 委　員 | アンケートでは福祉に関する情報が入ってこない方が6割で、60～80歳代の方の割合が高く、民生委員を情報の入手先とする方は１桁台なので、民生委員に周知してもらう余地がある。弥栄地域は福祉に関する情報を入手出来ている割合が高いがなぜか。 |
| 委　員 | 民生委員の月１回以上の訪問、弥栄未来創造会議が主体となって実施するフォントサイズやカラー刷りなど高齢者に配慮した効果的な広報、防災無線などの活用などが効果をもたらしている。  また、弥栄地域では女性の単身者が増加しているが、1人ではできにくい電球の取り換え等サービスを受けることで、住み慣れた地域で安心して現在の生活を維持できれば良いと感じている。 |
| 委　員 | ボランティアセンターで支援を行っていないのか。 |
| 委　員 | 三隅地域などでポイント制度などを社協で設けている。弥栄地域でも社協の住民参加型福祉サービス通称「シルバー」があり、生活にかかわる些細なお困りごとを地域で解決する仕組みづくりを手伝う生活支援コーディネーターも配置されている。 |
| 委　員 | 色々な行事へ出かけることでつながりが生まれ、地域の人にお願いしやすくなる。コロナ禍ではあるが、用事があるときに出掛けることも地域の中で生活していく上で重要。 |
| 事務局 | 委員の皆さまにたくさんの意見をいただいたので、素案に何らかの形で反映させ、次回示したい。 |

（2）地域福祉計画の策定について

（協議資料No.4：地域福祉計画素案の説明）

|  |  |
| --- | --- |
| 委　員 | 地域別の傾向が記載されているが、旧浜田市域では、アパート住まいで町内会未加入の方もいて、町内会の行事の情報が届かず、参加意向があっても地域活動に参加できないこともある。人とのつながりを作るため何らかの形で町内会行事に参加してもらうように周知することが重要だと思う。 |
| 事務局 | アパートの住民は、若い世代、特に大学生が多いと思われる。地域活動への参加義務付けは困難だが、何らかの形で参加するよう周知することは可能と思われるため関連部署と協議したい。 |
| 委　員 | 先ほど8050問題を言われたが、近年ヤングケアラーも大きな社会問題となっており、ヤングケアラーにも配慮して地域福祉計画を策定していく必要があると思う。 |
| 事務局 | ヤングケアラーについては言及し漏れていたので、そういった方々にも配慮した計画となるよう修正したい。 |
| 委　員 | いくら行政がホームページやメールで情報発信しても、受け手が情報を入手するためレベルアップしないといけない。マイナンバーカードをみても、利用方法が分かっていない人も多い。人と人とのつながりといったアナログな部分も重要だが、計画期間が5年と見据えるとデジタル化推進も大切。他の自治体ではどうか。 |
| 事務局 | 市の他の計画の中にも、ICTを活用した取り組みを推進しているものもある。重要なのは対象者に応じて効果的に情報等の周知を行うこと。現状、地域の担い手の多くは高齢者となっているので、高齢者に合わせた情報の発信を行う必要がある。 |
| 委　員 | 大学生にも地域福祉を担っていただくという考えはどうか。 |
| 事務局 | 大学生は浜田市の貴重な財産。若い人の柔軟な考え方で新しい地域福祉も生まれることも期待でき、大学生も地域福祉の主役の一人と考えている。 |